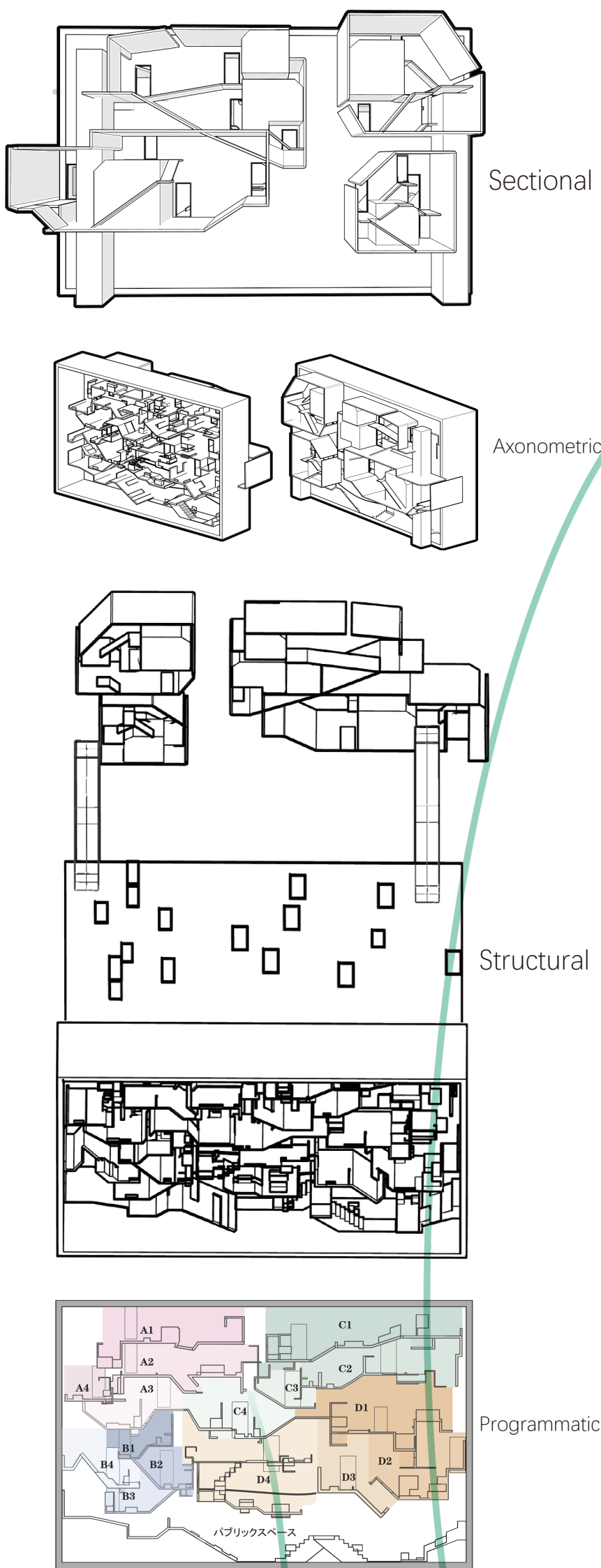




広場において、周りの人混みに感覚が麻痺していること。数え切れないほどの人々が通り過ぎ、接触できず、惹かれずに、急いで去っていく。不適切な例をあげる、もし完全な人間ではなく、手や頭などの切断された体の一部が突然広場に現れる。だからこの時点で、受動的なアイコンタクトをするかどうか、そしてそれをどう感じるか。

触れることと触れられることは、しばしば交換可能である。あなたが誰かに触れようとするとき、それはたいてい特徴を持った誰かに惹かれていて、その瞬間、あなたも触れられる側である。

日常的に同じ家族やルームメイトと家で生活していると、他人の存在感や接触の意欲に感じられない。このように、人間的な部分を強調することで、他者に接触したいという気持ちを引き起こしてみる。各スペースはセミオープン状態である。それはカプセルホテルまたは家族単位の形で存在することができる。スペースを利用するときは、体の一部を見せながら、部屋の空気や日光の一部を他の人のスペースに取り入れる。積極的に「触れる触れられる」の媒介物を形成する。シュレーディングーの猫のような感覚の家を作り、他人の気配の包囲感を感じる。コミュニケーションを開始するかどうかは、使用者の観察力にかかっている。

施設には、大きさの異なる16の居住スペースと一体化したパブリックスペースに分かれている。このスペースには、ラウンジエリア、ワークステーション、専用の「(mu)room」が設置されており、部屋でワークをしたり休んだりする人々の基本的なニーズを確保している。パブリックスペースは、高さ2500mm、使用可能面積40m²で、ジム、コミュニケーションエリア、リラクゼーションスペースが設置されている。

このスペースの個々の部屋は、閉じたスペースではなく、スペースの端に繋がるエリアとの繋がる部分を持っている。自分の香りや動きが隣のスペースにいる人に影響を与えると同時に、相手の動きの一部を見ながら移動することで、自分のスペースでの存在感を高めることができる。

各スペースには0.8m²～1.2m²のワークエリアが設置されており、ワークスペースには、400mm～500mmの深さのリフトシートがあり、用途に合わせて調整できる。また、オープンエリアもあり、上下のスペースに繋ぐことも可能である。チルトテーブルの天板は800mmとなっており、繋がるスペースでのワークエリアのプライバシーを確保している。



これは、A1、A2、A3、A4号室のつながるエリアで、他の部屋のつながりと同様に、それぞれのスペースが他の部屋とのつながりを通して見えてくる。ここでは異なる高さをつなぐ3層繋がるスペースであり、スペースは個々の室スペースよりも高さが高い。これは、平均高さ1400mmの部屋の人にとっても、この「サバンナ効果」が繋がるエリアの吸引力を向上させている。また、繋がるスペースの各部屋の間がセミオープンになっていることで、お互いにコミュニケーション意欲を高めている。

これは、スペースA1、A2、C1、C3をつなぐエリアで、3つのスペースのコミュニケーションスペースと専用の「(mu)room」があり、快適で便利なスペースを通してコミュニケーションの欲求を高めることができるようになっている。コミュニケーションエリアの各部屋間の距離は300mmから500mmで、コミュニケーションのスペースの要求を満たすとともに各エリアの安全性を保障しているが、半遮蔽の構造は安全を保障するとともにスペースのセキュリティと人間のプライバシーを向上させている。